

Vol. 86
ワンゲル季刊誌

ヤンロー

あめおとこ度チェック

Q. この絵を見てどう思いましたか。

- ① うなづいた。
- ② 笑った。
- ③ 踏みつけたかった。
- ④ 切り取っておふだにしようと思った。
- ⑤ 色えんぴつで色をぬろうと思った。



- ⑥ いい雨具が欲しいと思った。
- ⑦ 山に行きたくなった。
- ⑧ 小太郎さんみたにしたいと思った。

(複数解答可)

冬の号 1988. 1.

今年度最後のヤシローです。

「やっと出たか...」とつぶやいた人！ 御安心下さい！
巻の噂では来年度は某H氏が鬼の編集長と
なり、重い重いルマを課して ビシビシ！バシバシと
原稿を取りたてるとか...。会員は 重ルマ に
あえぎ 苦しみ ちう。白い紙なんて見たくない！！

* * *

ところで、'85年度までの 会記録 は 3月の一番初
めの例会で 集めろ。

おろしく お願いしまる。(かしこはどの管轄なんだろ。)

* * *

佐藤さん、山口くん、新井くん、原稿を ありがとう。

* * *

表紙の Q の 解説は お好きなようにどうぞ...。

単に、この絵を使ったかただけだよ。



あめトコは
誰だ

心が細い Y さん exc...
40 W さんとか
K さんとか...

とんでは、(御ゆるり)
お読み下さいませ。

87' ワンゲル事件簿

4月 新歓 OPEN ワンデリング事件

- 今年度の新人を迎えるの最初の行事。O君、K君、T君、Jさん等7人の参加があったが最後まで残ったのはなんとA君たった1人。悲惨。

5月 新人名宿の後の事件

集結地ではなんと新人が10人近くいたのに最終的に残ったのはたった4人。悲惨

6月 PW分裂事件

山行PWが出たがS君派とT君Y君派に分れようとうS君は1度もT君Y君と山行に行けなかった。悲惨

7月 S君 恋人発覚事件

2回生S君は先輩をさしおいてこしもあつるか合コンで知り会ったHちゃんをひっかけ京都御所で「手揮つゝええか」と言っ自分拳を握った楽しい奴です。

8月 夏合宿事件

● ●
Kア合宿が成功したのに対してSア合宿は... 成功した... かな? (多くは語りたくない今日この頃です。)

9月 山小屋傷害事件

今年度の山小屋ワークにおいて、1回生A君は酔ってしまい、木のいすで顔と額を切って血を流して帰ってきて翌日病院へ。悲惨!

10月 鳳凰三山事件

今年のPWでは大成功のPW。全て晴れました。噂ではY君が同行しなかったかぶとか、よかったです。

11月 ワンゲル女フーバー事件

N女子大の学園祭に行ったA君はな。ちんと3年ぶりの合コンのキップを手に入れかけました。今年度の最高殊勲選手です。しかも大夜祭には、Oさんとその友人3人が来て大いに盛り上げました。Y君2人はかわいそうでしたがよかったです。

今年もいろいろあったけど、来年はもっとHAPPENINGが有っておもしろいワンゲルにしてくれよ!

雪の山小屋で

山口 拓

去年のクリスマス頃、たしか冬休みに入る前の日だったと思う。山野と二人で山小屋に行った。別に何の目的もなく、その日に思い立って出かけたのであが、思いがけず北山の雪景色を見ることができた。京都の街中にも雪を見ることはできが、雪が積もっているところというよりは、なかなかにお目にかかれない。雪の新しい冬を過ごしたことがなかった自分にとって京都の冬はどこか乾いた感じのすき冬だった。後にも先にも京都で本当に冬を感じたのは山小屋に行ったときだった。

月の明るい夜で、あのお地蔵さんのあそび所からいくつか坂を登ると目の前にほらと展望が広がる。白い雪でおおわれた遠くの山々は月の光を反射し、幻想的でさえあった。

そして、山小屋でむかえた朝。窓から朝日がさしこみ、鳥の鳴き声も聞こえる。眠い目をこすりながらバンと入口の戸を開けると、一面に広がる真白雪、雪、雪！ まぶしい朝の光の中、綿帽子をかぶった屋根や木々の枝々から雪の解けた滴が落ちる。ふと足もとを見ると、まのう僕ちがここへ来たときの足跡が残っている。そういえば、まのうここまで尋ねてく~~る~~木を野うさまの足跡はどこへ続いていったらうか。そんなことを考えながら、けく息を白くした。

と-きん ばうと なつがっしゅく.

無務. 渉外B. 新井 泰博 (法-1).

今、僕の目の前には、一冊の1-1がある。表紙には、"Wandervogel" と英語で書いてあるが、この一語を調べるために、押入れにしまい込んであった、旺文社の和英辞典をひっぱりだしてまで調べたのを今でも覚えている。

「そんなこと、すぐらうだよ。何がなくてもカタカナでもいじやないか」と言われそうだし、
現に、今、だれかが同じことをしていたら、僕もたぶん同じことを言うだろう。

でもこの"Wandervogel"の一語を書き入れたとは、そんなおぼろげなことで、非常にうれしかった。何か一生懸命、ていげうな友達を見つけた気分だったにちがいない。

そして、頭の中のテーブルには「山」というメインメニュー、新人合宿、クリスマス、白山PW、前期試験、教習所、ヤシローの原稿、という「おかず」が、まるでメニューの様に、
一定期間をおいて変わっていく、という日が続いた。

僕は次のメニューの味をたのみにあつた。夏期合宿、トレーニングとミーティングを合わせた。
顔合わせ... 白山PWに尾関氏が加わったんだけど、休決定... 予想通り準備だった。
しかし、激怒する前中のテッポウ。(鳥の滅菌にいた、Tは、7時間半を要した) 今、その時の概急図
free. それにあつた原稿ホカカ。

すなわち、7月26日の段階で嫌気がさして来た。その頃、夏のゆるみがあつたからトレーニング7
日間の自転車事故、なると身心ともに疲れた状態で予備合宿に突入した。

*

海泳... じゃなかった。淡水泳? の人は尾関に、新人合宿の時に喧嘩別れた長七を
絶交したはずの犬又に話しかけてJR比叡の馬尺に降り立った。

僕の頭の中には「予備」という字が浮かんでいた。「そうだ、これはあくまで北ア1075の予備」と
と自分に言い聞かせた。

しかし、この予備、ということでは、171ホカカを目前にしても、早くも崩れ去った。そして堂満の上り
では、そのことが体に悪影響。両足同時にこぶがえりて走り、1日おきすに完全燃焼。

途中、「中学校と高校の区別は今どう何と何とだろ」とか、「昔、僕が今どう思っているか、
山に登るとなると想像もできなかった」とか、今は「なぜ、僕はこんな思いを
して山に登るとなるとだろか」と考えていると黙々と登っていた。

その、おもしろい事も9日にはヒークに達した。朝、目を覚ますと強風でフライが泣き叫び、
食器洗いの水には、エキをいけてもガスで足もが見えず、双足履に打たれて何度かおぼれた。
それでも僕は「トホホホが厳冬のヨーロッパを越えたとその心境はこんな感じだ、
しかも、なびと大げなことを考えながら、西鎌尾根と千丈溪を越えと越えて橋岳山荘に到着
した。

山荘に着いたと「僕の夏は終わった」と思ったが、北アルプスはそんな甘いものか。

「一番楽だ」と思っていた上高地までのF1が実は地獄の行進だったのである。

その事は筆舌に尽くし難い。ただPL甲斐性で飲んだチュームが妙にうまかったと
は、おと違えている。

＊

か、不思議なもので、山行中、あんなに早く下山したと思っていたのに、上高地まで
来ると、「徳沢園から横尾山荘でサイトして、快晴の橋に登りた」とか、生意気なことを言
っていた。

松本の銭湯に入ると、山行前は不安に押しつぶされかけた、山行前は「おみみんぞ、

「おみみんぞ、おみみん」とか、おみみんが嘘の山に満足感で、おみみん。

でも妙に一番楽な笑橋土のザックや、おみみんも背負ったおみみん、一番良く寝て、おみみん
のことはおみみん「今回一番楽だったのは自分かおみみん」と思っている深く反省していた。

＊

予備合宿以来「山と谷」の「山と谷」を改めて2週間。今、南アルプスパルクの見送
りの帰りに買った「山と谷」を読みながら後期PWを乗りかかっている。

してはいた。

2日目と3日目も着くに及ばず、平のバス停に立った時は、身も心も木の木のようになっていた。降りる電車の中で、「はたして、この弱気な精神状態と、この底まで低下した体力で、北アルプスの山を走破できるのだろうか」と、アジに刺した指の汗を見つめてはよく考えていた……。

前号のヤシローの原稿を書いている時は、おどろく想像もできなかったであろう心境だった。この気持ちには、さらに発展して、「アジとヤシロー」と考えはじめ、「今、もし僕がやめた。他の北アルプスパーティーのメンバーの夏期合宿が」までしてしおこしているから、やめるのは夏期合宿が終わったからやめば、なると、退会時期まで考えていた。

4日、この不安な気持ちで、ヤシローと、15日アツクに誘われ、人ぞ「雷鳥号」に乗り込んだ……。

＊

雷鳥号の中では、差し入れをほおぼして、アグネー語を学ぼうと、土くぼし人は富山まで行った。

しかし、心とどこか不安が残っていた。この不安は、山の雄大な景色を見て、ますます大きくなった。

その日の夕方、飯と炊きあがった、岐阜大のWVの女の人が「アジは、Lanにうしろを見て、『さうさ、何んかおもしろい仙人のおもちゃだね〜』」と思っていた。辻井さんが、その人たさから、面談

も取り、生いたので、「辻井さんは仙人よりも偉いんだ」と、なると、おどろかされた。一人で着てあがった。エツツにいった。

次の日は、全日ヒストリエで、非常に楽しかったので、大にほめた。しかし、重たいアツクを背負っている人を見ると、「明日は我が身か……」と心面していた。この日の夜帳には、「おどろきヒストリエ……！」

なると意味深な？と、かき書いてあった。

3日目、4日目、5日目は、しどかたにもかかはず、天候が味方してくれたと、肩バートとウエストベルトの効果がよく、おどろきにたっていた。

6日目、シトと1日嫌な天候で、小雨も降っている様だ。「この日はテントの中でボクとアジに分ける」なんて、たしか言った土のなかだ。なると思っているから、出発の準備をしてテントをたいた。しかし濃霧のため、出発を断念。しお「降り雨の中をまた黙々とテントを設ける。

「テントでくろける」という気持ちと、「降り雨が日延びた」という思いが、複雑にまじり合っていた。ビスコをかいた。

6日目を皮切りに、7日目、8日目は、ガス、1日、1日が絶え、展望もほっときかたの、アツクな山行となった。

“ツネコちゃんのブアは本文に関係ない!”
6C023-4 尾関直美

今年の夏合宿は一回生の時参加できなかったため初めての
ものだった。いろいろと頭の中には浮かぶのだけれど、どう書
こうかと悩む。会記録よりも大変ではないかなあー?

1回生Yくんめわけのゆからん言葉だけでもずいぶん書ける。
グリーンごはん、サッポロ一番(と書いても何もおもしくないのだ
けれど、これはサッポロポタのこと。)麦茶の種なんどの
もあったけど...

テントの中では、“みんなの歌”が 鳴り響いてて... (今もし、どこ
かから流れて来たとしたら 思わず“ペン”を深められて 天気図
をつけようとするかも。)

ふ...と、五色ヶ原にtripしようになった。とんで、
なんだっけ、きりがなくおちゃめまね... あ、今、黒部
五郎の雷鳥が 谷の中を 4ヨコ4ヨコ 歩いてた...。
話はまたり変わるんだけど、TVアキのハイジの中で、お勉
哉中のハイジが アルパバットを見てるうちに とんが ヤギに
たぶはねまわり始めて、で、空に向かって 飛んで、ちゃ
というめが ありました。 あん、何か 好きだっけ...。

で、この夏合宿というのは、最後に 天気ガスガスとまった
けど上高地で 終わったのでした。 はあ、と 思わず たぬ息
ぽどついてしまう。 着いた、着いた。

前に一度来たんだって、上高地は、高校の時に...。

その頃、わけはないけど ワンゲルに入って 日帰り
1000m 程の山に 連れていって 振ったところだった。

その時は 急登続きの 尾根を やたらと 速いペースで
歩いたために、山というよりは 上にあるわけで、上に向

歩くというよりはむしろちやえらいと知って感心した。ちやど
その頃に、林間学校みたいなので、土高地に来た。"ふうん."
北アルプスなんていっても、よくわからなかったから"焼岳と、
岳求、穂高かま - " と思っただけだった。槍ヶ岳とか、
湘求はけは、どこかにあるだろうと、それだけで納得
した。ゾロゾロ...と団体で歩いてはいたけれど、他
に観光客など少なかったから、とても静かで、空は青いし
おで、綺麗にみえていた。梓川もさらさらキラキラと
流れてきた。(また来たことあるかま -)と、目並み
な展開だけれども思った。(山に登りに...)と。その時、
本当に思ったんだから、仕方ないじゃないと言いつける。
同じくその友達に、「絶対に大学に入ったら、登山に来るもんね」
と言っていたけ...。ただ、私はそれを聞いて、私もそう
いうことにはなかなかな - と、ちやと考えただけだった。
単に先のこと、というだけじゃなくて、とても果てない方に
思えて。"また来よう"でも"北アルプスに登ろう"でもなくて
、いっこうに何かあるだ"かま - 登山人もいるわけ...と
道標を見て、思ったけ。もっとも、それは岳求への道
だったんだけどね。

でも、おま、また来たのでした。立山から歩いてきたわけだ。
合宿10日めに再会した梓川...。ちやていうと、もう、言い古して
みた、な表現だけれど、それよりも、たぶん、人間を目に
したことのほうが、カンどーにしました。見上げた岳求は
霧に半分隠れていて、かき混ぜかけのソーダフロート
みたいだった。メロン色にとろんとぼやけてた。